

令和7年度千代田区ジェンダーに関する 意識・実態調査 報告書【概要版】

調査の概要

千代田区では、性別による不平等がなく、誰もが自分らしい生き方を選ぶことができ、その選択が認められて参画できる社会の実現を目指し、「千代田区ジェンダー平等推進行動計画」を策定しています。令和9（2027）～14年（2033）年度を計画期間（予定）とする第7次計画策定の参考とするため、区民・事業所にアンケート調査を実施しました。

調査対象	①満18歳以上の区民 1,500人	②満13歳～17歳の区民 1,500人	③区内の事業所 1,100事業所
抽出方法	無作為抽出		
調査期間	令和7（2025）年8月1日～8月25日		
回収率	25.7%（385件）	22.3%（335件）	17.9%（197件）

<調査結果の見方>

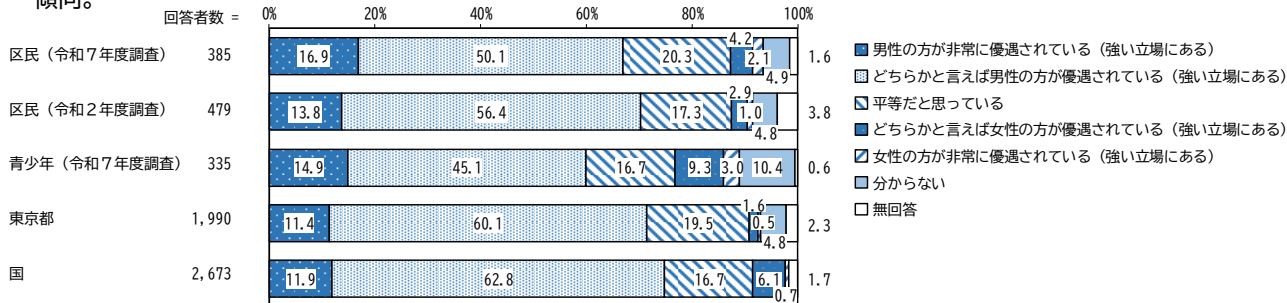
- 「令和2（2020）年度調査」「前回調査」とは、令和2年度に区で実施した同様の調査のこと。
- 「国」とは、令和6（2024）年9月に内閣府が実施した「男女共同参画に関する世論調査」のこと。
- 「東京都」とは、令和3（2021）年3月に東京都が実施した「男女平等参画に関する世論調査」のこと。

※以下、①の調査を「区民」、②を「青少年」、③を「事業所」と表記する。

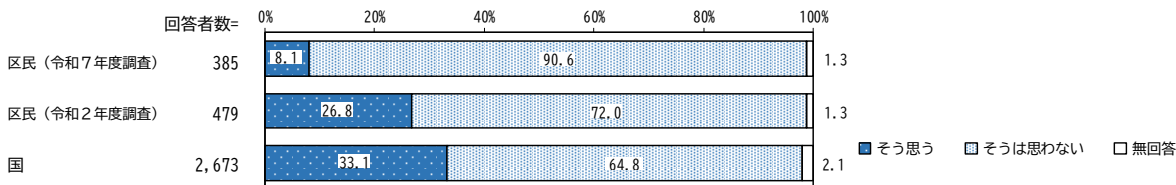
男女平等・男女共同参画に対する意識について

○「社会全体」の男女の地位について、“平等だと思っている”区民20.3%と、前回調査17.3%と比較して3.0ポイント増加。東京都（19.5%）、国（16.7%）より多い。

・区民調査の「平等だと思っている」は、女性15.5%、男性26.1%で、女性の方が10.6ポイント少なく、前回調査と同じ傾向。



○「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と“思わない”区民90.6%と、前回調査72.0%と比較して18.6ポイント増加。国（64.8%）より多い。

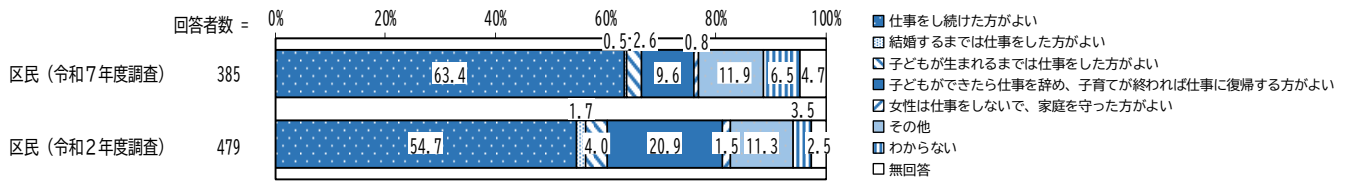


➤固定的な性別役割分担意識に否定的な考えを持つ人は、国と比較しても多く、性別にこだわらない考え方が一般化してきている。また、こうした意識がみられる一方で、実態としては男女の地位が平等になっていると感じている人は、前回調査から増加しているものの、依然として少ないことが伺える。特に女性にその傾向が表れている。

女性活躍推進について

○女性が、“仕事をし続けた方がよい”と思う区民 63.4%と、前回調査（54.7%）と比較して 8.7 ポイント増加。

【女性が仕事をするることについて】



○女性の就業についての考え方の背景をみると、女性の経済的自立を重視する考え方の増加が伺える。

【女性が“仕事をし続けたほうが良い”と考える理由】

1位	女性も経済力を持った方がよいと思うから	65.2%	(前回調査 62.0%)
2位	働くことを通じて自己実現が図れると思うから	53.2%	(前回調査 56.7%)
3位	女性の能力を活用しないのはもったいないと思うから	48.2%	(前回調査 56.4%)

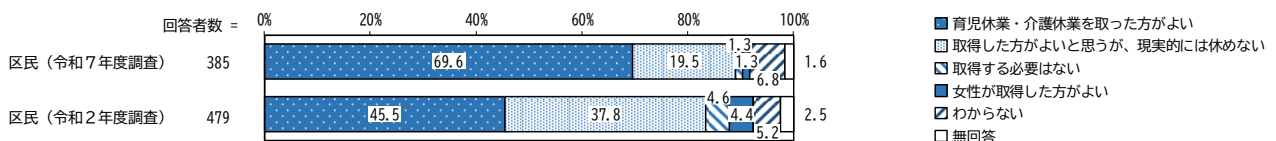
➤女性の就業に対する考え方が肯定的に変化し、実態としても女性の就労が増加しているものの、管理職に占める女性の割合が少ない事業所が多い傾向が見受けられる。

➤区政への女性の参画に関しては、男女間で意識に違いがみられ、女性の経済的自立を重視する考え方が増加していることから、こうした意識を反映した支援が求められる状況が伺える。

ワーク・ライフ・バランスについて

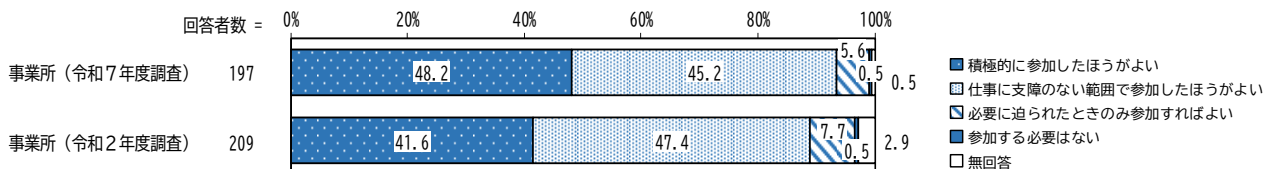
○育児・介護休業の取得に対する考え方について、「取った方がよい」が 69.6%と、前回調査 45.5%と比較して 24.1 ポイント増加。

・「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」は 19.5%と、前回調査 37.8%と比較して 18.3 ポイント減少。



○男性従業員の育児参加について、“積極的に参加したほうがよい”が 48.2%と、前回調査 41.6%と比較して 6.6 ポイント増加。

・“積極的に参加したほうがよい”は従業員規模別では、「1～30人」44.3%、「31～100人」44.2%、「101～300人」51.2%、「301人以上」75.0%と、従業員規模が大きくなるにつれてポイントが増加している。



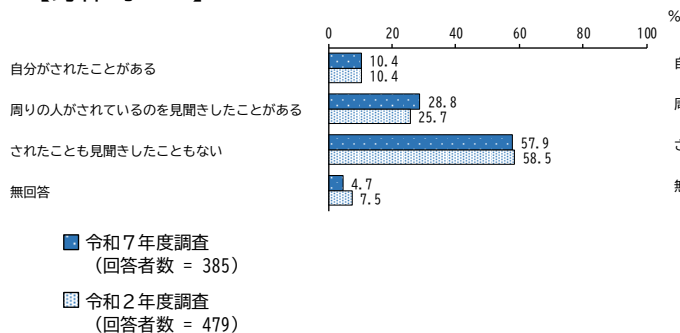
➤男女ともに、育児・介護休業取得について、前向きな意識が広がっているものの、現実的に休めないと考えている人も一定数見受けられる。

➤男性の育児参加について、企業側からも前向きな回答が増加しているものの、従業員が「301人以上」の大企業は男性の育児参加への意識が高い一方、従業員規模が小さくなるにつれて、その意識は低くなっている。

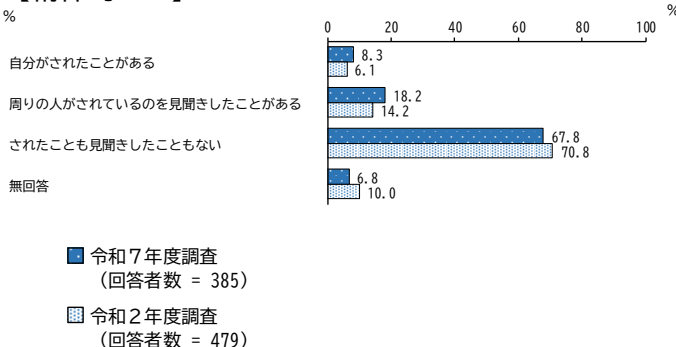
DV・ハラスメントについて

- “殴る、蹴る、突き飛ばす、物を投げつけるなど、暴力行為を受けた” といった身体的DVを受けたことのある区民は 10.4%と前回調査（10.4%）と比較して横ばい。
- “長期間に渡って無視し続けられた” といった精神的DVを受けたことのある区民は 8.3%と前回調査（6.1%）と比較してほぼ横ばい。

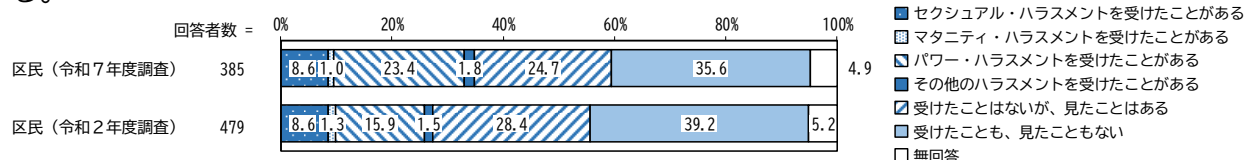
【身体的DV】



【精神的DV】

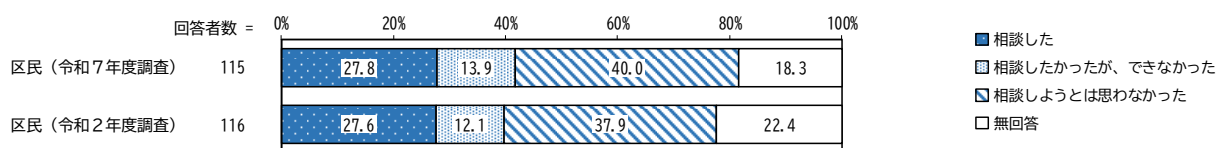


- ハラスメントを受けたことがある区民 34.8%と、前回調査 27.3%と比較して 7.5 ポイント増加している。



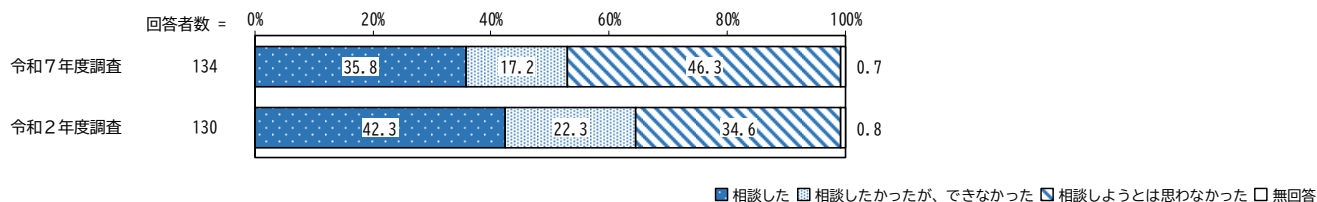
- DV・ハラスメントの被害を受けたことのある区民の約半数以上（DV:53.9%、ハラスメント:63.5%）が、“相談したかったが、できなかった” “相談しようとは思わなかった” と回答。
- ・ “相談しようとは思わなかった” は女性 32.4%、男性 58.3%と、男性の方が 25.9 ポイント多い。

【DV被害を受けた際の相談について】（区民）



【ハラスメントを受けた際の相談について】（区民）

- ・ “相談しようとは思わなかった” は女性 35.4%、男性 64%と、男性の方が 28.6 ポイント多い。

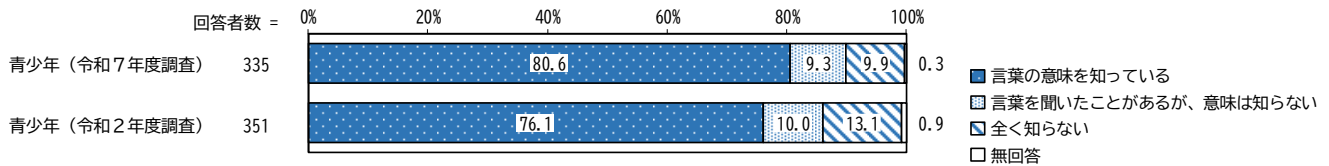


- DV被害の割合はほぼ横ばいであるのに対し、ハラスメントを受けたことのある区民は増加傾向にある。
- DVやハラスメント被害者の半数以上が被害を相談しておらず、特に男性被害者は女性被害者に比べて相談率が低い傾向にあり、被害が潜在化しやすい。

音声コード

LGBTQについて

○「LGBTQ」の言葉の認知度は、青少年で80.6%と、前回調査76.1%と比較して4.5ポイント増加。



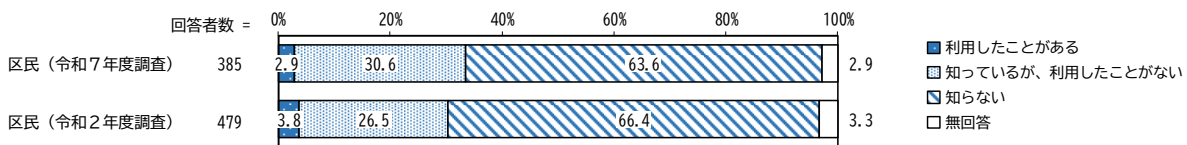
○LGBTQの人権を守るために力を入れていくべきと思うことについて、区民も青少年も同様に、“正しい理解を深めるための教育を学校で行う”“LGBTQであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する”という回答が多い。

- | | | | |
|----|------------------------------------|------------|-------------|
| 1位 | 正しい理解を深めるための教育を学校で行う | (区民) 54.0% | (青少年) 52.2% |
| 2位 | LGBTQであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する | (区民) 42.3% | (青少年) 41.8% |

➢「LGBTQ」の言葉の認知度は向上しているものの、「正しい理解を深めるための教育」や「法律・制度の整備」といった対策が継続して求められていることが伺える。

区政について

○千代田区男女共同参画センターMIW（ミュウ）の認知度は33.5%と、前回調査30.3%と比較して3.2ポイント増加。



【ジェンダー平等社会の形成のため、区が力を入れていくべきこと】（区民）

- | | | |
|----|---------------------------------|-------|
| 1位 | 育児・介護休業制度の充実 | 27.8% |
| 2位 | 女性のキャリアアップ、企業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援 | 21.0% |
| 3位 | 仕事と生活の調和、ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組 | 20.8% |

【企業の男女共同参画を進めるにあたり区が力を入れていくべきこと】（事業所）

- | | | |
|----|----------------------------------|-------|
| 1位 | 育児・介護に関する休暇・休業制度等への賃金補償 | 34.5% |
| 2位 | 多様な働き方やワーク・ライフ・バランスを推進する企業への優遇措置 | 33.0% |
| 3位 | 保育施設・保育サービスの充実 | 29.9% |

➢男女共同参画センターMIWの認知度は向上しているものの、利用したことのある区民の割合は依然として低い水準にとどまっており、認知されていても利用につながっていない状況が伺える。

➢区民も事業所も、育児・介護休業制度への取組や、ワーク・ライフ・バランスの推進を支援する取組を求める声が多く、これら取組の強化が必要とされていることが伺える。

音声コード

令和7年度千代田区ジェンダーに関する意識・実態調査報告書（概要版）
 発行年月：令和8年3月
 発行：千代田区 地域振興部 国際平和・男女平等・人権課
 〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1
 電話 03-5211-4166